



思いを見守りたい

塾の新年度は一足先に始まりましたが、多くの学校や会社はいよいよ新しい年度を迎えます。朝日小学生新聞も4月からリニューアルして「天声こども語」の筆者の何人かが交代し、また読解問題が今までの配信に加えて紙面にも掲載されます。先日担当の方がいらっしゃってその打ち合わせをしました。要約の練習などとともに私の作った問題が載ることになります。楽しみにしてください。

さて先日、県立高校の教員に内定したことを報告に卒業生のS君が来てくれました。彼は中学時代は本当に野球小僧で、決して成績が良い方ではありませんでした。高校も野球をやりたくて野球の強い私立を選び進学しますが、引退後の高3に突然やってきて高校の先生になりたいから大学受験すると言い出しました。なんでも母校の社会の先生に憧れたようです。それから塾の自習室にこもる日々、教員養成課程のある大学を選んで見事合格。それから4年、初志貫徹で高校教師です。中学時代の坊主頭の面影はなく、まさに爽やかな好青年となっていました。このように生徒たちの成長に立ち会えるのが塾をやっているのうれしさです。ほかに、小さい頃の食物アレルギーを治してもらい自分もその専門医になりたいと医学の道に進んだ人、入院した時に優しく接してくれた看護師さんに憧れて自分もそうなった人、子どもの頃に車の安全装置をすごいと思い実際に自動車メーカーの開発に携わることになった人、何かを人に伝えることが好きでNHKの報道記者になった人、いろいろな塾生たちのその後も見守ってきました。

「夢は何なの?」とか「将来何になりたいの?」とか言われても、それにはっきり答えられる人は少数派で、ほとんどの人はぼんやりとしているでしょう。それが少しずつ「思い」として形になってくる時期は人それぞれではないでしょうか。そんな時に親でも学校の先生でもない第三者として見守る存在でありたいです。選択肢を示す、先輩たちの話を聞かせる、進みたくなった道に必要な基礎学力の身に付け方を教える、そういうことならできます。